

《文しょうもんだい 1》

文しょうもんだいを やって みよう。 答えを 文しょうの 中から みつけよう。

【れいだい】

つぎの 文しょうを 読んで、といに 答えよう。

「おい、 こっちの 木に なっている みの 方が おいしいぞ。」

たぬきが さるに むかって 言いました。それを 聞いた さるは、

「いや、 こっちの 方が おいしいに きまっている。」

と 言いました。すると、 たぬきは さらに こう 言いました。

「いやいや、 ちがうね。 この みの 色を見て くらん。 こっちの 方が おどろくほど 赤くて とっても あまそうだ。」

そう 言われた さるは なんだか そんな 気が して きました。

(とい) 「そう 言われた」と ありますが、 何と 言われたのですか。 □ に 入る ことばを 書こう。

こっちの 方が

ほど

て としても

だと 言われた

【答え】

こっちの 方が おどろくほど 赤くて としても あまそうだと 言われた

【かいせつ】

さるが たぬきに 「そう 言われた」 ことを さがします。 前の 文に たぬきが 「いやいや、 ちがうね。 この みの 色を 見てくらん。 こっちの 方が おどろくほど 赤くて としても あまそうだ。」と 言っているの、そこが 答えになります。

つぎの 文しょうを 読んで、といに 答えよう。

パンダは、山の 中や 竹の 林の 中に す
んで います。その 見かけは くまに にて
いますが、からだの つくりは アライグマに
にて います。パンダは 白と 黒の 毛を もっ
て います。まるまると した からだで すわ
りこんで いる すがたは、まるで ぬいぐるみ
のようです。

日本に いる パンダは 中国から やって
きました。だから パンダの 名前は みんな
中国人の 名前と にて います。

(1) パンダは どの 中で くらして います
か。二つ みつけて 書こう。

の
中

の
中

(2) 「その 見かけ」とは 何の 見かけですか。
□に 入る ことばを 書こう。

の 見かけ

(3) パンダの からだの つくりは 何に にて
いますか。

(4) パンダの どのような すがたが ぬいぐる
みの ようなのですか。□に 入る ことばを
書こう。

と
した

で

すがた

つぎの 文しょうを 読んで、といに 答えよう。
 朝^{あさ} まどを あけると 雪^{ゆき}が いっぱい つもっ
 て いました。

「ごはんを 食^たべたら、雪だるまを 作^{つく}ろう。」
 と おにいちゃんが 言^いいました。それを 聞^きい
 て わたしは 大きく うなずきました。

外^{そと}は とても さむくて、わたしの ほっぺが
 まっかになりまし。そんな わたしを 見て
 おにいちゃんは、

「りんごみたいだな。」

と わらいました。さむかったけれど 大きな
 雪だるまを 作る ことが できました。

(1) わたしは おにいちゃんと 何^{なに}を 作りまし
 たか。

大きな

(2) 「そんな わたし」とは どんな わたしで
 すか。□に 入る ことばを 書^かこう。

に なった わたし

が

(3) 外で わたしを 見た おにいちゃんは 何
 で わらったのですか。□に 入る ことばを
 書こう。

わたしの ほっぺが

みたい

だったから

つぎの 文しょうを 読んで、といに 答えよう。
 パンダは、山の中や 竹の 林の 中に す
 んで います。その 見かけは くまに にて
 いますが、からだの つくりは アライグマに
 にて います。パンダは 白と 黒の 毛を もっ
 て います。まるまると した からだで すわ
 りこんで いる すがたは、まるで ぬいぐるみ
 の ようです。

日本に いる パンダは 中国から やって
 きました。だから パンダの 名前は みんな
 中国人に にて います。

(1) パンダは どの 中で くらして います
 か。二つ みつけて 書こう。

の
中

の
中

(2) 「その 見かけ」とは 何の 見かけですか。
☐ に 入る ことばを 書こう。

の 見かけ

(3) パンダの 見かけは 何に にて いますか。

(4) 日本に いる パンダは どこから やって
 きましたか。



つぎの 文しょうを 読んで、といに 答えよう。
朝^{あさ} まどを あけると 雪^{ゆき}が いっぱい つもっ
て いました。

「ごはんを 食^たべたら、雪だるまを 作^{つく}ろう。」
と おとうさんが 言^いいました。それを 聞^きいて
ぼくは 大きく うなずきました。

外^{そと}は とても さむくて、ぼくの ほったが
まっかになりました。そんな ぼくを 見て
おとうさんは、

「お前^{まえ}の ほった、りんごみたいだな。」
と わらいました。さむかったけれど 大きな
雪だるまを 作る ことが できました。

(1) ぼくは おとうさんと 何^{なに}を 作りましたか。

大きな

(2) 「そんな ぼく」とは どんな ぼくですか。
□に入る ことばを 書^かこう。

になった ぼく

が

(3) 外で ぼくを 見た おとうさんは 何で
わらったのですか。□に入る ことばを 書
こう。

ぼくの ほったが

みたい

だったから



つぎの 文しょうを 読んで、といに 答えよう。

ハムスターは 顔^{かお}が ふたつ分の^{ぶん} 大きさに

見えるくらい 食^たべものを 口^{くち}に つめこむ こ

とが できます。「ほおぶくろ」を もって いる

からです。ハムスターは これに 食^たべものを

つめこんで はこびます。また、すを^{つく} 作る^{つく} ざ

いりようも つめこんで はこびます。入り き

らない ときは、しょうがないので 口^{くち}に くわ

えて はこびます。

「ほおぶくろ」は ハムスターの なかまで あ

る リスも もって います。でも、同じ^{おな} なか

まの ネズミや モルモットは もって いません。

(1) ハムスターは どれくらい 食^たべものを 口^{くち}に つめこむ ことが できますか。□に 入る ことばを 書^かこう。

に

が

くらい

の

(2) 「これ」とは 何^{なん}ですか。文しょうの 中^なか
ら 五字で さがそう。

(3) ハムスターは 何を 口^{くち}に つめて はこぶ
ことが できますか。二つ みつけて 書^かこう。

を作る

(4) ほおぶくろを もって いない どうぶつを
二つ みつけて 書^かこう。



つぎの 文しょうを 読んで、といに 答えよう。

ハムスターは 顔^{かお}が ふたつ分の 大きさに

見えるくらい 食^たべものを 口^{くち}に つめこむ こ

とが できます。「ほおぶくろ」を もって いる

からです。ハムスターは これに 食^たべものを

つめこんで はこびます。また、すを 作^{つく}る ざ

いりようも つめこんで はこびます。入り き

らない ときは、しょうがないので 口^{くち}に くわ

えて はこびます。

「ほおぶくろ」は ハムスターの なかまで あ

る リスも もって います。でも、同^{おな}じ なか

まの ネズミや モルモットは もって いません。

(1) ハムスターは どれくらい 食^たべものを 口^{くち}

に つめこむ ことが できますか。□に 入

る ことばを 書^かこう。

に

が

くらい

の

(2) 「これ」とは 何^{なん}ですか。文しょうの 中か
ら 五字で さがそう。

(3) ハムスターは 何を 口^{くち}に つめて はこぶ
ことが できますか。二つ みつけて 書^かこう。

を 作る

(4) ハムスターの ほかに ほおぶくろを もっ
て いる どうぶつを 書^かこう。